



1 「千里山まちづくり協議会」設立15周年に寄せて

千里山まちづくり協議会は「千里山自治会」「千里山商栄会」「千里山のまちなみを考える会」が協働して、次世代により安心して安全な千里山を引き継ごうと、平成15年に設立され15年の歳月が過ぎました。6月には15周年記念行事として講演会「千里山地域の防災とコミュニティ」を開催します。

この間の特筆すべき活動といえば、平成17年にUR千里山団地の建て替えに伴い、吹田市により設置された「千里山駅周辺まちづくり懇談会」への参画があります。

前会長猪川氏が座長に就き、多くの会員が世話人として活躍しました。

以来十数年を経て千里山も大きな変貌を遂げ、今回の千里山のまちづくりも本年をもって完了します。

これまでの当会の主な活動を挙げますと、
平成17年 レッチワース通りにベンチを設置

18年 「まちづくり作法集Ⅰ」を完成

19年 「大阪府美しい景観推進会議」に参画
上方落語寄席「ちさと亭」開催
(現在は商栄会主催)

「千里山こだわり展」開催

21年 「第2回千里山こだわり展」を開催

22年 「まちづく作法集Ⅱ」を完成

25年 千里山90周年記念事業「千里山今昔展」に続き、「とっておきの千里山昔話」
をちさと図書館と共催



まちづくり作法集Ⅰ・Ⅱ

他にも定例会、散策会や見学会の開催。春秋の機関紙「ちさとの風」発行。地域各種団体行事への参加ならびに連携しての諸問題への取組などがあります。

今、千里山地域では開発や建替による諸問題が数多く発生しています。条例に抵触しない限り介入の余地はなく、景観に関しても主観の相違などから対策に苦慮しているのが現状です。

他面に於いて「まちづくり」とは とかくハード面に目をむけられがちですが、住まう人々の作法がまちを創るのではないかと考えます。

最近よく口にされる《千里山らしさ》とは？

千里山に住まう人々が地域に愛着を持って生活することで醸し出されるものが《らしさ》ではないでしょうか。

近年、子育て・環境面で千里山に住みたいと希望される若いご家族が増えているように聞き及びます。

当会としては期待を裏切らないようなまちづくりを推し進めたいと思いますので、なお一層のご支援、ご鞭撻のほどお願いいたします。

(会長 筒井一光)



ベンチの設置



上方落語寄席「ちさと亭」



千里山こだわり展



千里山今昔展「図録」



フォーラム「千里山昔話」

2 まちづくり協議会のイベントや研修会にあなたも参加しませんか？

千里山で暮らす・遊ぶ・知るをテーマに、街づくりの提案やイベント・研修の企画などを行います！

■ 千里山ウエストサイドストーリー 高齢者社会の地域モビリティ

大正12年(1923年)の関東大震災の僅か10年後、昭和8年4月 この「千里山西」に大阪府の都市計画による“風致地区”が設定されました。吹田市制が施行される7年前のことです。

以来、86年間「千里山西」は、云わば府によってフリーズされ吹田市の都市計画から除外されてきた歴史があります。従って大正時代の創設からの狭い坂道のまま戦後の車社会(モータリゼーション)を迎えたのです。千里山西5～6丁目を貫く府道121号線は歩道もなく、今も大型規制のまま観光バスすら入れないのです。

“大正時代の理想郷”と云われた「千里山西」は、大阪のベッドタウンとして評価を高めてきましたが、反面他地区からの人や車の進入を考慮に入れない「千里山モンロー主義」とでも云える思いが、住む人々の間にあったのかもしれない。

そんな中で、今超高齢者社会が到来しました。車があっても運転が難しい人々も増え続けています。この坂道の街に、地域公共交通の必要性が益々増大しています。従ってこの地域に関心の高い市議会の諸氏が数年来何度も質問などで要望されてきたのが、地域公共交通乗合バスの問題であります。

勿論、地域住民の間でいくつかの要望運動がありました。千里山コミュニティセンターの設立後、2年で2回の専門家の大学教授による講演会が開催されたのを契機に“有志の会”が結成され、近隣都市のコミュニティバスの実地試乗や、月例の研究会が続けられて、市の担当部局との交渉もしています。

一昨年、市の調査費が予算化され、千里山東、西、春日と佐井寺の一部でアンケート調査が行われました。一歩前進が期待されることから、3地区連合自治会長さんの推薦による方々を加え、半ば公式の“千里山地域公共交通推進協議会”(通称 このまちにコミバス走らせ隊)が結成され、駅の東西の仮ルートでの試乗会も実施。多くの市民の参加がありました。また月例の推進の情報交換会も続けられています。市の担当部局のご努力もあって30年度の予算もついて、この31年2月16日から2週間の“乗合交通実証実験”が実施されました。仮ルートながら路線地域の多くのご家族連れの乗客があり、好評のうちにのべ3350人を数えて、アンケート調査も行われました。

この問題は地域住民のモビリティ(移動性、可動性、動きやすさ)を確保するためのものであり、「ルートの決定」や「停留所の設置」「車種の選定」など諸課題の解決が必要とされていますが、市をあげて問題解決がなされ1日も早い実施プランが策定されることを多くの地域住民が期待しています。

【脚註】

- ・風致地区は、平成25年4月より府から吹田市に移譲され「千里山西」と「千里山東」があり、担当部局は「都市計画部都市計画室」。「千里山西」は約88haで千里山西1丁目、3丁目、4丁目、5丁目、6丁目、円山町、垂水町1丁目が含まれています。
- ・交通問題の担当部局は「土木部総務交通室」

このまちにコミバス走らせ隊 代表 西澤 甚一郎



すいすいバス



実地試乗(ロータリー)



実地試乗(スクランブル)

■ 千里山女子ハイツ跡地のマンション計画

千里山西住宅地、令和元年はどうなるのでしょうか。大正時代に郊外住宅の理想郷として開発され、良好な住環境を次世代に引き継ぎたいと活動している市民に大きな課題が残されました。

千里山駅前から西に延びるレッチワース通りから新御堂筋を結ぶヘヤピンカーブのある急な坂道にあった女子学生ハイツが解体されマンションが計画されています。第1回大阪府都市景観賞知事賞を受賞した千里山ロイヤルマンションの隣接地。事業主は神戸市に本社を置く優れた経営理念「共生(トモイキ)」を持つ株式会社和田興産。

この計画の大阪営業所の担当は地域住民の前に顔を出さず(株)現代総合設計と代理人の(株)ネッドエンジニアリングに任せきりです。

計画は地元住民には受入れ難たく、住民から意見書49件、再意見書121件提出しました。利益本位の設計で和田興産の計画とは思えないので、和田興産の社長に見直しの要望書を提出しました。また吹田市長宛に業者に対して千里山に相応しい計画を求める要望書を千三地区連合自治会、千里山まちづくり協議会、千里山ロイヤルマンション自治会が個別に提出しました。

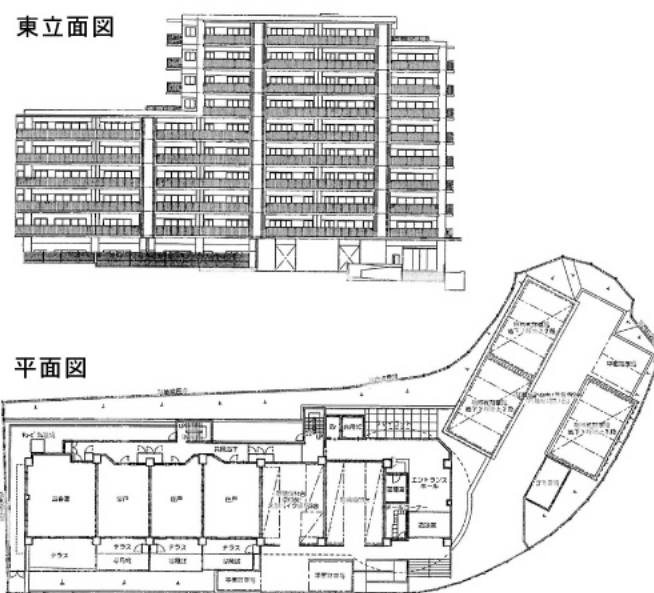
3月24日の説明会で一方的に事業者は当初計画通り10階建53戸のヴォリュームの大きなマンションを建てると通告。急な坂道の危険なカーブに駐車場の出入口があり、交通事故の危険性が高く、隣接する千里山ロイヤルマンションの日差しが悪くなり、千里山西沿道の景観が損なわれます。

それで、計画の見直しを求める署名を集めて、署名121通を和田興産の神戸本社に届けました。

2月の市議会ではこの問題が取り上げられ注目されました。また吹田市すまいる条令の手引きに従って、吹田市に調停・あっせんを申し立てましたが、事業者が拒否したため不成立となりました。

次世代へ安全で良好な環境・景観を引き渡したいと計画の変更を求め、和田興産と直接話し合えるよう千里山を良く知る弁護士と進めています。

千里山ロイヤルマンション自治会 松岡要三



建設予定地全景



反対運動のチラシ



千里山の景観を守るポスター

敷地一杯に計画された10階建て。隣接住人の日射しを遮り、強い圧迫感。地域にマッチしないボリュームの大きなマンション計画。坂道のヘヤピンカーブの途中に駐車場の出入口口を設け、事故を誘発する恐れ。

あなたも、まちづくり協議会やイベントサポーターに参加しませんか。定例会は奇数月の第3土曜日・午後7時に千里山会館で開催しています。

■ 去年は自然災害が相次ぎました

去年は大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号と自然災害が猛威を振った年でした。千里山でも北部地震の折には停電の続いた地区があり、日常生活に支障をきたしたことは記憶に新しいところです。これらの災害を受け、まち協では普段からどのように備えていけばよいかということを15周年記念事業として皆様と共に考えていきたいと思います。

そのために、長年防災について研究されてきた元神戸大学の西先生をお招きして活動のベースとなる下記の基調講演会を開催するとともに、別途大西先生にも参加して頂いて千里山の防災について皆様と一緒に考えるワークショップを開催していきます。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

講演会「千里山地域の防災とコミュニティ」
講師：大西一嘉先生(元神戸大学)
日時：6月1日(土) 14:00～15:30
場所：千里山コミュニティセンター(多目的ホール) (高津章雄)

■ 健都(北大阪健康医療都市)ウォーク

昭和初期生まれの世代には、吹田の名所はと問われれば、すぐさまアサヒビール工場と吹田操車場でありました。ビールの方はさておき、吹田と攝津両市にまたがる大正12年生まれの吹田操車場は今日、大変貌を遂げています。それは健康寿命の延伸をリードする健都和コンテナ輸送を担うJR吹田貨物ターミナル駅にです。

令和が発表された4月1日、春のウォークが健都の緑の遊歩道で行なわれました。一行13名は、昨春開業の阪急バスに千里山駅から乗車し、同時期に開通した千里山佐井寺線やストリート・アートの並ぶ片山坂の景色などを眺めるうちに、終点JR吹田北口駅に到着。メロード吹田東側から直ぐにJR線路沿いに緑の遊歩道が、岸边駅まで2km(全長3km)に亘り、延びています。高中低木がびっしり植えられています。なかでも桜はエドヒガン、シダレ、オオシマ、サト、カンヒ、ヤマ、ソメイヨシノと7種類が連続して植栽され、移りゆく開花時期に合わせ花見を楽しめる趣向が凝らされています。

緑道北側沿いに2.5haの健都レールサイド公園が伸び、土の広場、健康増進広場、みどりの広場を形成しています。子供向けのザイル・クライミングはシンボリックでユニークな遊具です。新幹線の車両が覆いの陰で再登場の日を待っています。

健都ライブラリーも来年竣工の予定です。新築移転のなった8階建の市民病院も心ある医療をモットーに昨年12月から開院しています。岸边駅橋上通路は140mの長さで駅、市民病院、駅前複合施設、7月開院予定の国立循環器病センターを繋いでいます。整備中の医療イノベーションパーク、都市型住宅、公園みどり等とあいまって各機関、企業、多様な世代の連携の下、新時代の健康医療都市モデルを目指す健都の一端に見える機会となりました。

ウォーク後は、健康メニュー等の昼食を摂りつつ懇談交流も図られました。ご協力お世話を頂きました関係各位に厚くお礼を申し上げます。(中野直衛)



大阪北部地震災害



台風21号:NETニュース



バス停留所で集合



桜も満開でした



健都の資料

■ 千里山とともに

千里山西 ちさと会 堀田暁生

私は千里山で生まれ、ほんの一時期を除いて千里山で育ち、生涯を送ってきました。いつの間にか古希を超えましたが、傘寿を超えてもなお生き生きと活動されている先輩たちにあやかりたいと思っています。

私は千里第二小学校に学び、吹田一中にかよいました。今は千里第二小学校のOBの親睦団体であるちさと会に属しています。そのちさと会ではここ数年千里第二・千里第三の二つの小学校に要請されて、千里山の昔について出張授業をしています。80代～70代のOBが数人、小学3年生の子どもたちに、画像を見せて昔の千里山の様子や暮らしを伝えています。質問の時間になると活発に質問をします。その中には、回答に困るようなものもありますが、こちらの盲点を突かれるような事もあります。子どもたちが感想文を書いてくれることがありますがとても新鮮な感性だなと思います。

画像では、開発直前の千里山の様子、現在関西大学幼稚園の所にあった花壇、そこにあった飛行塔と小動物園、牛車で肥たごを運んでいる所など、今ではすっかり忘れ去られている風景を紹介しました。また、小学生たちにひときわ驚きを与えたのが、窓拭きです。私たちの小学生時代には、掃除も生徒がやることもあり、窓枠にまたがってガラスふきをしたものですが、その画像をみて子どもたちは一斉にいまやったら絶対できないと声を上げていました。また、教室の中に石炭ストーブがあり、そこに煙突がついているのにも驚いたようでした。戦争中のことでは男子が丸坊主にさせられたこと、戦後の給食に脱脂粉乳や鯨の肉がついていたことも驚いたようです。今から半世紀ほど前には、あちらこちらにため池があり、蛙・フナ・水鳥などが住みつき、蛇やイタチなどの小動物、カブトムシ・クワガタ・蟬などの昆虫も千里山の野山にたくさんいました。今にして思えば自然がそこにはあったのです。

出張授業では、大阪大空襲の体験画も見せましたが、焼夷弾や1トン爆弾など、千里山にも被害があったことなど、伝えられて良かったと思っています。今の平和な時代が長く続くように祈りたいものです。

現在の千里山と、過去の千里山、私が小学校に通っている頃は、道は舗装されていず、雨が降ると靴がドロドロになることもしばしばでした。通う道の両側は雑木林のある小高い山すそであり、反対側は田が広がっていました。千里山団地ができる前です。団地ができからは次第に住宅が増えてきた感はありませんでしたが、急激に住宅が増え、道路の舗装が進み、反対に街路樹が伐採され始めたのは万国博覧会開催以後でしょうか。たしかに、阪急千里線や地下鉄御堂筋線の延伸、新御堂筋の建設など交通の便は遙かに良くなりました。

しかし、かつて遊んだ広っぱがなくなり、木立に覆われた家が少なくなり、緑が減少して行くのを見るのは悲しいものです。そこで響いていた子どもたちの声も今では聞くことができません。

感傷にふけっただけは何も始まりません。私が千里山を強く意識するようになったのは、大阪市が企画発行した『まちに住まう一大阪都市住宅史』という本に関わったことです。この編集過程で、建築史や都市計画の研究者と交流することになり、そこから日本の住宅の歴史において、千里山の占める位置が非常に重要であるということが確認できたのです。

実際、平成28年(2016)に吹田市立博物館で「『田園都市』千里山～大正時代の理想郷～」という特別展が開かれ、その時には都市計画や住宅史の研究者たちが貴重な講演をしていました。そういった講演や展示されたものを通じて千里山の特色が浮かび上がっていたように思います。

千里山の開発は大正9年(1920)からです、その3年後に14戸の入居がありました。来年は開発から100年を迎える訳ですが、輝かしい歴史を持っている千里山が、今後の町の活性化と景観の美しさをどうやって取り戻していくかが今後の課題ではないかと思っています。また、千里山に住む人たちが町の歴史を学び、そして後生に伝えていくことも大事なことでと感じる次第です。



千里山団地



水源地



千里山花壇



花壇の飛行塔



教室風景



大掃除(窓ふき)



投稿歓迎! ご意見や千里山ニュースなどへの情報をお寄せ下さい。ブログ「ちさとの風」へのコメントやトラックバックもよろしくお願いいたします。千里山まちづくり協議会では会員を常時募集しています! (年会費:1000円) 以上、当協議会また開催イベントなど、お問い合わせやご参加の際には、お気軽に下記事務局までご連絡下さい。

発行: 千里山まちづくり協議会 会長: 筒井一光 事務局長: 松岡要三 編集: 中野直衛・小島功
事務局: 〒565-0851 吹田市千里山西5丁目11-19 千里山会館内 TEL: 06-6384-0603
(年会費などの振込み口座番号: 00990-7-278514 口座名称: 千里山まちづくり協議会)
ブログ: ちさとの風 <http://blog.goo.ne.jp/chisato-wind> (右のQRコードでアクセス)

